

# NEWSLETTER

NO.9

30 JUNE 92

|                   |       |                     |       |
|-------------------|-------|---------------------|-------|
| ・巻頭言              | ( 1 ) | ・1992年3月卒業生の就職先     | ( 6 ) |
| ・教室をめぐる動き         | ( 1 ) | ・地理学科卒業生に対するアンケート調査 | ( 6 ) |
| ・非常勤講師の先生からのメッセージ | ( 2 ) | ・1年生による専門科目の授業評価    | (10)  |
| ・教員の研究活動          | ( 2 ) | ・昨年度(1991年度)地理学教室予算 | (12)  |
| ・1992年度教員在室時間割    | ( 4 ) | ・主要購入備品のリスト         | (12)  |
| ・1991年度卒業論文主題一覧   | ( 4 ) | ・主要購入図書のリスト         | (12)  |

## 巻頭言

### 地理学教室のかかえる諸問題

教室主任 野口 泰生

いま、日本中の大学で、何かが動きだしているような気配を感じませんか。何年ものあいだ、静まりかえっていた大学の空気が静かに胎動を始めた様子がうかがえると思いますが、いかがですか。この動きのきっかけを作ったのは、文部省の大学審議会が昨年提出した「大学設置基準の大綱化」に関する答申であることは周知の通りです。しかし、残念ながら、このうねりに似た流れの根底には、18歳人口の減少という「外圧」によって初めて生き残りをかけた大学の自己改革が現実味を持つようになってきた、という事実が隠されています。

しかし、きっかけは何であれ、大学における「自由競争の幕開け」「サバイバル時代の到来」なのです。地理学教室では、今後次第に加速度を増すであろうこの流れにただ身を任せることはせず、積極的に取り組んでいきたい、と思っています。その中には、キャンパス問題、地理学教室の枠組み、人的組織、カリキュラム、教育研究環境の整備、学生とのコミュニケーション、自己評価、意識改革などが含まれます。既得権などという言葉はこの際持ち出すべきではないという覚悟で臨みます。

当然、学生の側にも協力と責任の所在が求められます。この春、卒業証書を手にするのできない学生が大量に発生しましたが、自分におよんだ結末についてほとんどショックすら覚ええない学生の増加は、教室改革の道の険しさを暗示させます。今一度ここで、自分の選んだ道を反省し、納得いく選択をして欲しいと思います。学生諸君の協力と参加を願っています。

## 教室をめぐる動き

この4月に次の人事がありました。

### <退任>

清水 長正 (非常勤講師)  
田淵 洋 (非常勤講師)  
福島 義和 (非常勤講師)

### <新任>

澤口 晋一 (非常勤講師) 第四紀学、自然地理概説 (教職)  
水野 一晴 (非常勤講師) 文献研究、生物地理学  
高木 正 (非常勤講師) 首都圏地誌、外国地誌 (アジア)

### <昇格>

野口 泰生 (教授)

## 非常勤講師の先生からのメッセージ

澤口 要一（「第四紀学」「自然地理概説」担当）

学部・大学院をあわせて13年間明治大学に在学しました。いくら何でもこれ以上大学に学生として籍をおくのはいい加減いやがさしてしまい、今年の3月をもって退学しました。という訳で現在は中・高校1校と大学2校で非常勤講師生活をしています。

大学の教壇に立つのは今年が初めての経験でありまして、今のところまだ要領がつかめず苦労しています。改善すべき点に気がつきましたならば授業が終わった時にでも遠慮なく言ってください。また、気が付かずに関わってしまったことを言っていることもあるようです。もしそのようなことがあれば、これについても遠慮なく指摘してください。

研究テーマは、学部の3年生の時にレポートの必要から読んだ、論文（鈴木秀夫：低位周氷河現象の南限と最終氷期の気候区界、地理評35-2）に感銘を受けたことにはじまります。というよりその論文のフィールドが小生の郷里に非常に近かったということの方が大きかったかもしれません。という訳でおもなフィールドは北上山地と北上盆地の北部、それにこここのところ4年連続で行っているスピッツベルゲンなどです。ひところ日高山脈の氷河地形にも熱中しましたが、ここ数年は時間がなかなか取れず御無沙汰しています。来年ぐらいからまた北海道調査ツアーを計画しようと考えてますので、寒冷地形に興味のある人がいれば是非参加してください。そういえば生物地理の大家・水野一晴大先生もかつて我々が組織した日高山脈探検隊のメンバーだったのです。いずれにせよ、地理はすなわち「歩け・見よ・考えよ」です。

はやくも前期が終わろうとしています、後期もよろしくお願いします。

高木 正（「首都圏地誌」「外国地誌（アジア）」担当）

1992年度、「首都圏地誌」と「アジア地誌」を担当させていただくことになって、三か月ちかくが経過しました。各地域ごとの地誌が勉強できるという科目の設定は、学生諸君にとって非常に有意義なことだと思います。各自の専門領域を掘り下げると同時に、世界や日本の基本的な地誌を押さえておくことは重要です。それゆえ首都圏とアジア地域を任される側としても一定の責任の大きさを感じています。

地理学専攻の学生さんには、地図や地域概念などに関する用語が使いやすく、こちらの意図をよく理解してくれます。ただ、わたしの場合、人文地理の立場から言わせてもらいますが（自然地理学を目指しておられる学生さんには申し訳なく思っております）、地域社会を対象とする以上は、現在の世界や日本の社会経済的な動向を包括的に把握するための基本的な視点を持っていて欲しい。もちろん地理学の学問的な独自性を追求することは大切です。でもその一方で、社会科学（人文科学でもよい）としての共通した観方にも関心を持ってください。これを逆にいえば「地理学で何だ」という問いかけになると思います。学生時代の少しの期間だけで結構ですからこだわってください。

申し遅れましたが、わたしの研究分野は経済地理で、南北問題を中心とする世界経済地誌といったところです。国内研究としてはここ数年、沖縄県を調べています。どうかよろしくお願いします。

## 教員の研究活動

長島 弘道 教授

### <研究活動>

#### 論文：

- 1991 ハンガリーの都市近郊地域における最近の変容 ガーデンを中心として  
国土館大学人文学会紀要24号

瀬戸 玲子 教授

### <研究活動>

#### 論文：

- 1992 産業大分類別就業人口構成比の1965年～1985年における変化 三角ダイアグラムを使った市区町村別  
コロブレスマップの作成による考察 ． お茶の水地理33号（式正英先生退官記念号）

<委員会活動>

- 1992年4月～ 日本地理学会、国立地図学博物館設立推進委員会委員 (GIS 部会)  
1992年4月～ 農業土木学会、北上川水系農業水利誌編集委員会委員

野口 泰生 教授

<研究活動>

論文:

- 1992 Vegetation Asymmetry in Hawaii under the Trade Wind Regime.  
Journal of Vegetation Science (Uppsala), 3, 223-230.  
1992 Hydrometeorological Differences Between Opposite Valley Slopes  
and Vegetation Asymmetry in Hawaii. Journal of Vegetation  
Science (Uppsala), 3, 231-238.

口頭発表:

- 1992 日本の気象官署における気温の永年変化と都市化の影響について (続報)  
日本地理学会春季大会

<近況>

この夏、7年間住み慣れた相模原から山梨水明の飯能へ引っ越す予定です。

長谷川 均 講師

<研究活動>

論文

- 1: 「石垣島サンゴ礁環境調査地点の地形と底質」、『石垣島のサンゴ礁環境』  
1991年、21-56pp. 世界自然保護基金日本委員会発行、214P. に所収
- 2: 「石垣島・カラ岳東海岸のサンゴ礁地形と底質」(市川 他を執筆分担; 3, 4章)  
(上記 1121-144pp. に所収)
- 3: 「サンゴ礁環境のデータベース化と時空間分析」(目崎 他を執筆分担; 1, 2, 3章)  
近代化による環境変化の地理情報システム、H 3 年総合報告書 (I) . 269-276, 203頁.
- 4: 「リモートセンシングを使ったサンゴ礁環境調査」、日本リモセン学会講演論文集12, 69-72.

その他の執筆活動

- 1: 「1990年白保サンゴ礁冬季調査 - 流況調査 -」、「白保サンゴ礁流況調査の結果報告」(目崎  
他を執筆分担)、「新石垣空港建設がサンゴ礁生態系に与える影響」日本自然保護協会 1991年、119p. に所  
収(「自然保護」誌に掲載されたものを再録)。
- 2: 「リモートセンシングデータの解析①」(卒論ワンポイントその7) . 地理1991年36巻8号、16-17頁.
- 3: 「リモートセンシングデータの解析②」(卒論ワンポイントその9) . 地理1991年36巻9号、12-13頁.
- 4: 「石垣島のサンゴ礁環境」(出版物の紹介) 地理 1992年37巻4号、130-131頁.

学会発表、講演

- 1: 「死んでゆくサンゴ礁」、法政大学沖縄文化研究所公開講演会.
- 2: 「サンゴ礁環境のデータベース化と時空間分析」、文部省科研費公開シンポジウム
- 3: 「リモートセンシングを使ったサンゴ礁環境調査」、日本リモセン学会学術大会

<近況>

- ・1991年夏の石垣島夏の調査(グループ研究)がTV朝日「ニューステーション」、「ダイビングワールド」  
「ダイバー」誌で紹介された。
- ・「琉球新報」; サンゴ礁研究の紹介記事が掲載された。「読売新聞」; エジンバラ公石垣島視察のコメント。  
今年あたりは、マスコミはもうサンゴ問題にあきる頃か…。

内田 順文 講師

<研究活動>

学位論文:

- 1992 「地理的イメージに関する研究」(名古屋大学より文学博士号を取得)

<近況>

昨年は常勤1年目ということに甘えて、学位論文の提出以外にはほとんど研究らしい研究ができませんでした。今年はもうその手は通じないので、とりあえず小京都に関する論文を完成させたいところです。

☆☆

☆☆

☆☆

☆☆

## 1991年度 教員在室時間割

Na: 長島 Se: 瀬戸 No: 野口 Ha: 長谷川 Uc: 内田 イニシャルは講義時間を示す  
 : 鶴川校舎 : 在室時間または講義、 : は在室していることが多い

|   | 9:00-10:30                                                                                                                                                                       | 10:40-12:10 | 12:50-14:20 | 14:30-16:00 | 16:10-17:40 |
|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 月 | ----- Uc Uc Uc Uc Uc Uc Uc Uc Uc Uc -----<br>No No No No No No No No No No No No No                                                                                              |             |             |             |             |
| 火 | Na Na Na Na Na Na Na Na Na Na Na Na Na Na Na Na Na Na Na<br>----- No No No No No No No No No No<br>----- Uc Uc Uc Uc<br>Ha Ha Ha Ha Ha Ha Ha Ha Ha Ha Ha Ha Ha Ha Ha Ha Ha Ha Ha |             |             |             |             |
| 水 | ----- Se Se Se Se Se Se Se Se Se Se Se Se Se Se Se Se<br>Uc Uc Uc Uc Uc Uc Uc Uc Uc Uc                                                                                           |             |             |             |             |
| 木 | ----- Ha Ha Ha Ha Ha Ha Ha Ha Ha Ha Ha Ha Ha Ha Ha Ha Ha<br>----- Se Se Se Se Se Se Se Se Se Se<br>Na Na Na Na Na Na Na Na Na Na Na<br>No No No No No No No No No No             |             |             |             |             |
| 金 | Na Na Na Na Na Na (前期前半)<br>Se Se Se Se Se Se (後期後半)<br>No No No No No No (前期後半) ----- No -----<br>Ha Ha Ha Ha Ha Ha (後期前半) ----- Ha -----<br>12h30m~教室会議 13h30m~教授会             |             |             |             |             |
| 土 |                                                                                                                                                                                  |             |             |             |             |

・第3または第2金曜日は教室会議・教授会があり全員が出校しています。・上記時間以外の面会、相談などは Appointment によります。相談、質問などは教員の出勤中に済ませて下さい。教員の自宅、特に非常勤の先生宅への電話は極力ひかえて下さい。・研究室の電話は、03(5481)3245 (長島・瀬戸・内田) , 3246 (野口・長谷川)。  
 ・文献、機材の借りだし返却は、各自のゼミの指導教員をとおして行うこととします。

## 1991年度 卒業論文主題一覧

- |          |                                          |
|----------|------------------------------------------|
| 1 小俣 博之  | 山梨県のおどう栽培の現状と農家の対応                       |
| 3 前田 剛   | 九十九里周辺地域の近郊農業(施設園芸)の傾向と対策                |
| 4 川並 浩二  | 埼玉県行田市における足袋産業の経営実態                      |
| 5 三枝 茂   | 関東山地南部六本木峠~丸川峠周辺における岩塊流の成因について           |
| 9 山崎 徹   | 濃尾平野周辺地域での暖冬年、寒冬年における冬型気圧配置下の降雪量の特徴      |
| 12 足立 真一 | 神奈川県伊勢原市(東部)の小起伏地における気温分布と風が気温に与える影響について |
| 13 関根 勝弘 | 宮城県内におけるコメ事情と農家の対応                       |
| 14 白石 英巨 | 埼玉県川口における鋳物産業の現状                         |
| 15 岸 学   | 「圏央道」が与える影響について                          |
| 16 水間 俊夫 | 都市管理における警備業の役割とその現状                      |

|     |        |                                         |
|-----|--------|-----------------------------------------|
| 19  | 藤澤 一也  | 新潟県澁海川及び鮎石川の地形発達について                    |
| 20  | 仲田 克久  | 茨城県水戸地域における納豆産業の現状                      |
| 21  | 鈴木 和子  | 神奈川県横浜市中心部における湧水周辺環境                    |
| 22  | 柴 伸一   | 相模鉄道いずみの線における住宅地の形成                     |
| 23  | 田辺 篤範  | 千葉県松戸市における駐車政策について                      |
| 24  | 堤 道彦   | 埼京線の役割と沿線の開通後の影響                        |
| 25  | 辻 直樹   | 産業廃棄物処理の影響について                          |
| 29  | 山根 誠一  | 小貝川流域における水害危険地域                         |
| 31  | 兼元 卓也  | 千葉県手賀沼と茨城県霞ヶ浦におけるアオコの発生と水質汚濁の関係について     |
| 32  | 古澤 嘉廉  | 青森県白神山地におけるブナ林の環境保護問題と対策                |
| 34  | 宮本 茂高  | 千川上水の変遷と現状                              |
| 36  | 三浦 知樹  | 日本の主要カルスト地形の比較                          |
| 38  | 小原 久章  | 森林鉄道と観光資源                               |
| 39  | 寺久保丈二  | 神奈川県厚木市周辺地域における自動車の排気ガスと人為的影響による雑草の生育状況 |
| 45  | 藤田 裕人  | 都市再開発による空間利用及び景観の変化                     |
| 47  | 多田 信行  | 飲食店における立地条件の違いによる利用形態の比較                |
| 50  | 勝又 真澄  | 富士山における偏形樹より推測した卓越風向とその形成要因について         |
| 51  | 斎藤 出   | イシサンゴの骨格から推定したサンゴ礁内の環境 ～南西諸島石垣島を例として～   |
| 52  | 並木 純一  | 東京における梅雨期の雨の降り方と天候状況の考察                 |
| 55  | 柳井 雅憲  | 千葉県富山町における民宿型観光地の変化                     |
| 57  | 長野 正幸  | 長野県飯田市における水引産業の現状について                   |
| 61  | 赤木 信裕  | 関東地方における降水量変動係数にもとづく水資源安定利用の可能性の検討      |
| 62  | 高田 昌梧  | 琉球列島久米島におけるビーチロックの分布と形態について             |
| 64  | 多田 慎太郎 | 江東区木場における材木業の歴史と現状及び問題点                 |
| 65  | 工藤 秀一  | 市街地調整区域の農地転用について                        |
| 69  | 大村敬一郎  | 千葉県市川市における都市農業と住民について                   |
| 70  | 神谷 紀子  | 栃木県鬼怒川上流域における平均粒径の変化の要因                 |
| 71  | 原田 英光  | 相模原開発地地産物事業の衰退と都市化に与えた影響について            |
| 72  | 塩谷 正人  | 気象条件がスギ空中花粉に与える影響について                   |
| 73  | 若菜 正樹  | 千葉県におけるゴルフ場の立地と行政の対応                    |
| 74  | 松島 義浩  | 千葉市幕張地区の都市化と周辺地域の変容                     |
| 75  | 下澤 哲也  | 神奈川県南足柄市岡本地区と足柄上郡山北町清水地区の茶業経営の比較について    |
| 76  | 橋本 伸明  | 浜松地域テクノポリス政策による地域活性化について                |
| 77  | 関 健    | 新潟県新潟東港の機能と建設に伴う影響                      |
| 78  | 長谷川明雄  | サンゴ礁礁池におけるマイクロアトールの形状と分布 石垣島3海域での比較     |
| 80  | 門本 圭樹  | 埼玉県の自治体による緑地(農地等)保全政策                   |
| 83  | 大宮 雄一  | リゾートマンションブームの要因と地域別特性                   |
| 86  | 平間 俊秀  | ウォーターフロントMM21の開発による建設、運営方法について          |
| 87  | 小淵 禎男  | 藤枝市の茶業における周辺地域(牧ノ原・川根)との関係              |
| 89  | 林 克則   | 山梨県西八千代郡六郷町における印章産業の現状                  |
| 91  | 須丸 力彦  | 熊本県玉名郡長洲町における金魚養殖業の変遷                   |
| 93  | 森田 俊史  | 大阪府堺市における刃物産業                           |
| 96  | 倉持 利之  | 横浜の輸出スカーフ業界における分業体制の発展過程                |
| 97  | 石川 久幸  | 長野県茅科高原白樺湖周辺における観光地化の変遷                 |
| 707 | 中川 聡明  | 京都駅周辺における和菓子産業                          |
| 710 | 箱田 淳二  | 福岡県宗像郡玄海町における鍾崎海人の漁具・漁法とその変遷            |
| 716 | 山田 朋弘  | 厚木基地が周辺住民に与える影響について                     |
| 713 | 丸島 恵   | 東京都板橋区北部及び埼玉県戸田市南部における荒川が与える気候に対する影響    |
|     | 以上     | 58論文 登録者 81名 未定出者 23名                   |

以上 55 論文.

- ・ 3月におこなわれた全国地理学科卒業論文発表大会では、三枝 茂さん、斎藤 出さんが発表しました。
- ・ 1986年以降に審査された卒論のなかから、優秀なものや資料的価値の高い論文は製本され公開されています。

年度別、分野別に製本された卒論は第2研究室で閲覧できます。が本年度の製本おんどす。

## 1992年3月卒業生の就職先

ここに示したデータは、学生から大学に報告された就職先です。業種、職種が特定できないものも多いので、1月現在の就職決定先の名称だけを掲載しました。

- |                   |            |                       |          |
|-------------------|------------|-----------------------|----------|
| ・太知商事             | ・ミロク情報サービス | ・昭和株式会社               | ・フジヤマ    |
| ・サンフェ工業           | ・国土情報開発    | ・静岡都市設計               | ・湘南信用金庫  |
| ・日産コンピュータテクノロジー   |            | ・ダイセントラフィック・レーションサービス |          |
| ・荏原インフィルコ         | ・エームサービス   | ・ケーヨー                 | ・リバースチール |
| ・富士工              | ・タカナシ乳業    | ・町田市役所                | ・ジーンズメイト |
| ・日本中央開発           | ・リゾートトラスト  | ・凸版印刷                 | ・相模鉄建    |
| ・グレイモン・コンピュータサービス | ・ナチュラルハウス  | ・日立システムエンジニアリング       |          |
| ・麒麟ビバレッジ          | ・安田町役場     | ・東和システム               | ・若林      |
| ・モモコーポレーション       | ・富士通       | ・オオバ                  | ・吉川紙商事   |
- (この他の進路として、大学院進学(明治大、三重大)、家業手伝い、などがあります)

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

## 地理学科卒業生に対するアンケート調査

(1992年3月卒論公開口頭試験後に実施)

※適当に句読点を補ったほかは、誤字・意味不明瞭な部分を含めて、原文のまま記載した。

1. 卒論を書き終えて最も印象に残ること、要望、その他(たとえば、卒論の手引の使い方、論題の決め方、指導の仕方、等)について書いてください。

- ・フィールドワーク。
- ・夏休み中に基本となる調査を終えるべきだった。
- ・50枚という長い文を書いたことがないので、頭の中がメチャクチャになりかけた。
- ・こまったときは迷わず先生のところへ行くといい。
- ・アンケート調査が苦労した。
- ・発表の時、あがってしまい失敗した事。
- ・発表するときはプレッシャーがかかる。
- ・卒論を書き終えて感じたことは本当につらかった。と言うのも、卒論に対する考え方があまかったからである。自分が悪いのだ。
- ・時間がかかった。
- ・就職活動を終えてから本格的にとりかかったので、出遅れた。
- ・課題研究は三年のあたまたか二年からやった方がいいのではないのでしょうか。
- ・長島先生には大変お世話になりました。
- ・卒論を書き終えたら、学生のすべてが終わったような気がする。
- ・もっとゼミを多くして、色々な方面の先生を呼んで、ゼミの人数がもう少し少なくなれば…。
- ・フィールドワークが楽しかった。
- ・テーマの決め方にとても苦心した。
- ・巡検をもっとやりたかったです。
- ・(三年生の巡検)一番力になった。
- ・ゼミでの発表。
- ・図表の書き方・表し方の重要性。
- ・勉強不足。
- ・指導教授にいろいろ指導されましたが、自分では全く期待にこたえられなかった。
- ・卒論の手引きは参考になった。
- ・勉強不足を思い知った。
- ・気がぬけたこと。卒論のものの足りなさ。手ぎわの悪さ。
- ・野口先生の御指導ありがとうございました。
- ・早くから卒論にとりくんだ結果がよかったと思います。
- ・もうすこし文章を、特に語尾がきちんとしていればよかったと思います。

- ・現地調査は一生けんめいやった方がいいものが書ける。
- ・手引きのとおりによっていればまちがいはない。
- ・勉強不足。
- ・反論の予知なし。
- ・人文用の卒論の手引きの作成。
- ・指導の時間が短く、不親切。
- ・つかれた。やる時はやらねばいけないと感じた。
- ・自分の勉強不足を痛感した。
- ・早め早めに論題を決め、先生に指導を授ければよかった。
- ・高校野球の時と違った緊張感があった。
- ・やっぱり時間がたりなかった。
- ・長島先生のおかげです。
- ・少しでも添削を受けていてよかった。
- ・もっと前から行動をおこすべきだった。
- ・資料を集めることに苦労した。手書きなどで苦労した。
- ・文章の組み立ての仕方が「手引き」によってよくわかった。
- ・辞書を沢山使用したので、忘れていた漢字を勉強できた。文の言いまわしを覚えた。
- ・早く書こう。夜の方がよく進む。雨の日の調査はトラックの水はねに気をつけよう（特にTONAMI運輸）。
- ・きつかった。つらかった。くるしかった。
- ・コピー代がむちゃくちゃかかった。
- ・縮尺のちがう図を合わせるのがつらかった。
- ・時間が無い。私生活を犠牲にしなければならない。
- ・卒論の口頭試験が終わったあとに、余りにも失ったものの多さにくぐぜんとした。
- ・ゼミの人数を決めて、人数制限をして欲しい。
- ・とても大切だった。
- ・長谷川先生。
- ・現地調査した時のどしゃぶりと焼そばと焼うどんおでんとだ菓子とシベリアンハスキーと猫。
- ・こまかい作業で気がふれそうになった。
- ・卒論を書き終えて泣けた。
- ・フィールドワークは楽しかった。
- ・いろいろあって一言では書けない。
- ・もっと早くとりかかれればよかった。
- ・既卒の人たちの卒論を課題研究の時間に紹介していくと、これからもっとよくなるのではないかな。
- ・卒論で時間をたくさんとられた。卒論をなくして。
- ・ワープロに慣れていなかったのも、とても時間がかかった。
- ・論文のテーマは「役立てる」ことを目的に考えましょう。
- ・今年はみんな真面目であるね。卒論に満足しないヤツはみんな堂々と未提出、留年を選ぶんだもの。
- ・良い資料を探し出すのはご足労も良いところ。実に面倒ナリ。
- ・論題の決定に時間がかかりすぎて困った。
- ・文献をもっと読めばよかった。
- ・たいへん苦労した。
- ・早くから準備するのが大切だと感じた。

## 2. 地理学教室への要望があったら書いてください。

- ・飲食禁止はきびしい～。
- ・パソコンをもっと使用したかった。
- ・カラーコピー機を置いて下さい。
- ・地理学教室に入りづらい雰囲気を感じるのは私だけでしょうか。
- ・ふんいきを明るく。
- ・飲食禁止は少しきびしいのでは？
- ・もっとパソコンを多くして、みんな使えるようになればいい。
- ・気象衛星「ひまわり」の機材の講義をやってほしかった。
- ・もっと先生と生徒のコミュニケーションを図れる場が欲しい。
- ・パソコンを増やしていただきたい。
- ・自然地理のカリキュラムをもっと増やして欲しい。

- ・学生の研究室みたいなものが欲しい。
- ・Subゼミ（1～4年まで参加可能、サークルみたいなもの）が作りたかったです。
- ・世田谷と鶴川を一つにして欲しい。
- ・卒論の発表は良い経験になった。今後もぜひ続けて欲しい。
- ・地理学教室の雰囲気が少しかたい。
- ・誰でも自由に使えるコピー機を導入していただきたい。コピー機がなかなか自由に使えなくて不自由した。
- ・測量実習と就職活動がかさなってしまったので測量実習は3年の後期にやってほしい。
- ・テレビを自由に見れるようにしていただきたい（特にビデオを…）。
- ・ガラスばりは丸みえでよくない。
- ・ノアとひまわりのつかい方をおしえて、いつでもみれるようにした方がよい。
- ・明るく楽しい地理学教室。
- ・リモートセンシングでの提出期限を厳守していない学生がなぜ受かっているのか？講師の対応に疑問。
- ・時代に対応した授業を。毎年同じ内容で、先ばいのノートとまるつきし同じではやる気がでない。
- ・巡検を海外で。
- ・女子を増やして明るくしたらよいと思う。
- ・人文地理と自然地理は完全に別にしたい方がよいのでは？
- ・もっと明るくならよう。
- ・きれいな教室は夏になると、とてもあつくなるのでクーラーを入れてほしい。
- ・きれいになった。
- ・ニューズレターは今後も続けて下さい。
- ・パソコンが少ない。
- ・地理学教室が新しくなったのにちっとも活かされていない。
- ・巡検（自由に行けるやつ）がつまらない。もっとアイデアを！もう少し遊びの要素を。
- ・のみたい。くいたい。ねむりたい。
- ・授業時間を変更しないで欲しい。
- ・もっと自主順検の機会を増やして欲しい。
- ・オール冷だんぼ一完び。
- ・卒論につかえる授業を3年のうちにやりたかった。
- ・お昼たべれなくなって悲しい。
- ・教室がきれいになったけど、ざつ然というか一味ない。
- ・使用する教室と履修者数のバランスをもっと考えろ。
- ・研究室を広くしてほしい。
- ・学生部屋があったらよかった。
- ・事務員が専属であればいい。
- ・いまのままでよい。
- ・大学に不満はあるが、地理学教室はよくやっていると思う。
- ・窓ガラスをマジックミラーに変えて、中からしか見えなくせよ。
- ・リモセン課題として、スパイ衛星を製造し、打ち上げよ。屋上アンテナの感度を上げて、暗号無線までなんでもキャッチできるようにせよ。解読用OSも入れよ。
- ・パソコンを増やしてほしい。
- ・学生のたまり場がほしい。
- ・せめて3年の前期からゼミを始めてもらいたい。

### 3. 文学部（又は、大学全般）について要望があったら書いてください（例えば、文学部事務就職指導・設備に対する要望など）。

- ・もっといい食堂がほしい。
- ・国士館グッズの充実。
- ・過去の卒論を図書館に置いてほしい（無理かな？）。
- ・就職情報が遅い（特に地方）。
- ・出席カードはとるならとる、とらないならとらないと、どちらかはっきりしてほしい。
- ・主事制度の廃止。
- ・学食がきたない。
- ・就職指導は、あんまり役に立たなかった。就職部の人の態度が気に入らない。
- ・設備をもっと新しくしてほしい。研究室以外はどこも古くてきたない。
- ・冷房を入れて欲しい。

- ・広い食堂が欲しい。
- ・冷暖房を完備して。
- ・食堂がきたない（学生がよごしたのではなく、設備的に）。
- ・主事制度はよくないと思います。
- ・図書館を充実させていただきたい。その他設備も、より充実させてもらいたい。
- ・国公立のように24時間出入り可能にして、自分のデスクをもらいたかったです（最大の夢）。
- ・食堂をもっと良くして欲しい。
- ・コピー機など小さなことのオープン化。
- ・食堂に一言、食べられないようなものをださないで下さい。
- ・国士館は近代化すべきだ（英文科を設けたり…）。
- ・主事制度はいい制度だと思います。
- ・学食のきたなさはちまたで有名。
- ・主事の出席カードあつめはよくない。
- ・学食をきれいに。
- ・楽しく明るい文学部。
- ・学食の備品を新しく。不衛生な従業員、トイレに行くにもエプロンしてる等。
- ・冷暖房設備の完備。
- ・大学はイメージを変えた方がよいと思う。
- ・学食は大きく、そしてきれいにしてほしい。
- ・高校とは別にしてほしい。
- ・夏でも快適に授業ができるよう冷房を入れて欲しい。
- ・本間さん、本田さん、ありがとうございました。
- ・主事がこわい。
- ・就職センターはまったく使えない。
- ・ほとんどつかわなかった。
- ・学食をもっときれいにして、でかくしてほしい。
- ・学食を安くして下さい。
- ・履修登録のやり方と、授業のとり方を変更した方がよい。
- ・学食は揚げものばかりだ。
- ・サッカーをもっと強くして下さい。あと男子新体操も。
- ・がくしよく。がくしよく。がくしよく。
- ・授業中の剣道場の使用はひかえて欲しい。
- ・コピー屋が欲しい。
- ・設備投資しろ！
- ・学生が自由に使えるコピー機を置いてくれ。
- ・いすがすわりづらい。おしりがいたい。
- ・学校がせまい。中学と高校までいっしょなんて。
- ・もう少しおいしい学食を。女子大をみならってほしい。
- ・主事は忙しそうにしているが、実はヒマだろう。
- ・テレビの撮影のときだけ車を移動し、みえをはっている。やめよう。
- ・巡検の車、使用解禁。
- ・主事制をなくせ。
- ・主事はもっと親切にしてほしい。
- ・おもいきって大学名を変更してほしい。
- ・多目的利用として飛行船を買え。地理や東洋史の研究用にトラックとランドクルーザーと船を買え。どうせ半壊した校舎なのに、無理にもよう変えをせず、後のために貯蓄せよ。
- ・主事制度廃止。
- ・のびのびした大学にしてほしい。
- ・出欠はもっとゆるやかにしてもらいたい。そのかわり責任は本人がとる。

#### 4. その他

- ・4年間、ありがとうございました。
- ・人づき合いの下手な私はなかなか先生方に打ち解けず、直接相談や話がしたかったのですが、それも一度もできずに卒業していくのが少し残念です。
- ・卒論口頭発表の順番は、くじ引きで決めたほうがいいんじゃないかと思う。

- ・卒論を指導してくださった長谷川先生、清水先生、ほんとうにありがとうございました。また、これからも何とぞお世話になると思っていますので、よろしくお願いします。
- ・4年間の間お世話になった先生方、ありがとうございました。
- ・この4年間、野口先生をはじめ各先生方にいろいろとお世話になり本当にありがとうございました。就職しても地理の研究は続けていきたいと思っています。
- ・オタクが多すぎる。
- ・国士館万歳。
- ・選択科目を増やして。
- ・たかが地理学科、されど地理学科。
- ・あっという間に4年がすぎた。
- ・こうとうしけんつかれた。
- ・きんちょーしたで。
- ・4年間の学生生活は、いろいろな人と出会えて楽しかった。
- ・卒論発表のプリントは入場する時に、受け取れるようにしたい。
- ・もっと簡単に単位をください。なんでたくさん留年を出すのや。
- ・気象学でスケールのかいことはやりにくい。1人で生データを集められるのは、せいぜい地平線の範囲内だ。アイデアが目立とう！
- ・やっと終わった！

## 1年生による専門科目の授業評価

1年生の必修科目「計量地理入門」では、講義の一環として「アンケート調査と集計」に関する実習をおこなっている。この実習では3～4人がグループをつくり、独自のアンケート用紙を設計し、受講生全員に回答を依頼する。昨年度末、『必修授業に対する意識調査』という調査を実施したグループがあった。このグループの了解を得て専任教員の担当科目に限って結果を転載する。学生から提出された報告書は、グラフや表を駆使して表現力豊かな内容であったが、今回は紙面の都合もあり数値だけを示すことにした。また、一部の項目については紙面の都合で結果をすべて記載できなかった。

このアンケートでは、教員の評価のみを問い、例えば「あなたはこの授業を真剣に学ぼうと努力したか」、「つねに出席しようと心がけたか」など、学生自身の受講態度を問う項目が少ないことは問題であろう。なお、対象となった地理学専攻の1年の専門科目は、計量地理入門、日本地誌、人文地理概説、自然地理概説の4科目である。

下記の結果では、これらの順序を入れ替え、科目名をA、B、C、Dとした（アンケートではこの他に、情報科学、英語A、英語Bに関しても回答を求めているが紙面の都合で割愛した）。

● 調査日 1991年12月 地理学科1年生 63人  
質問には1～5までの5段階（結果見参照）で回答するようになっている。

### Q1 声は聞き取りやすいですか

|   | 1:大変良い | 2:良い | 3:普通  | 4:あまりよくない | 5:よくない |
|---|--------|------|-------|-----------|--------|
|   | A科目    | B科目  | C科目   | D科目       |        |
| 1 | 46.7%  | 3.2% | 22.2% | 11.5%     |        |
| 2 | 37.1   | 11.1 | 37.0  | 19.2      |        |
| 3 | 9.7    | 15.9 | 33.3  | 61.5      |        |
| 4 | 3.2    | 33.3 | 7.4   | 7.7       |        |
| 5 | 3.2    | 36.5 | 0     | 0         |        |

### Q2 板書は読みやすいですか

|   | 1:大変良い | 2:良い | 3:普通 | 4:あまりよくない | 5:よくない |
|---|--------|------|------|-----------|--------|
|   | A科目    | B科目  | C科目  | D科目       |        |
| 1 | 0%     | 0%   | 8.0% | 3.7%      |        |
| 2 | 6.3    | 1.6  | 12.0 | 25.9      |        |
| 3 | 34.9   | 7.9  | 36.0 | 70.3      |        |
| 4 | 39.7   | 30.2 | 24.0 | 0         |        |
| 5 | 19.0   | 60.3 | 20.0 | 0         |        |

**Q3 話が理解し易いと感じてわかりやすいですか**

1: 大変分かりやすい 2: 分かりやすい 3: 普通 4: 分かりにくい  
5: 大変分かりにくい

|   | A科目   | B科目  | C科目   | D科目  |
|---|-------|------|-------|------|
| 1 | 11.1% | 1.6% | 14.3% | 7.7% |
| 2 | 28.6  | 14.5 | 17.9  | 34.6 |
| 3 | 41.3  | 29.0 | 50.0  | 46.2 |
| 4 | 11.1  | 32.3 | 17.9  | 11.5 |
| 5 | 7.9   | 22.6 | 0     | 0    |

**Q4 授業の速度はどうですか**

1: 大変速い 2: 速い 3: 普通 4: 遅い 5: 大変遅い

|   | A科目  | B科目   | C科目  | D科目  |
|---|------|-------|------|------|
| 1 | 9.7% | 22.6% | 3.6% | 0%   |
| 2 | 30.6 | 30.6  | 7.1  | 7.4  |
| 3 | 56.5 | 41.9  | 89.3 | 85.2 |
| 4 | 3.2  | 1.6   | 0    | 3.7  |
| 5 | 0    | 3.2   | 0    | 3.7  |

**Q5 授業のやり方と構成はどうですか**

1: 大変良い 2: 良い 3: 普通 4: あまり良くない 5: 良くない

|   | A科目  | B科目  | C科目  | D科目  |
|---|------|------|------|------|
| 1 | 3.2% | 3.2% | 4.0% | 7.7% |
| 2 | 27.4 | 9.7  | 16.0 | 38.5 |
| 3 | 53.2 | 29.0 | 52.0 | 50.0 |
| 4 | 8.1  | 32.3 | 24.0 | 3.8  |
| 5 | 8.1  | 25.8 | 4.0  | 0    |

**Q6 授業内容をどの程度理解していますか**

1: 完全に理解している 2: 理解している 3: どちらともいえない  
4: 余り理解していない 5: 全く理解していない

|   | A科目  | B科目  | C科目  | D科目  |
|---|------|------|------|------|
| 1 | 3.2% | 1.6% | 3.6% | 7.4% |
| 2 | 25.4 | 12.7 | 14.3 | 29.6 |
| 3 | 38.1 | 34.9 | 46.4 | 33.3 |
| 4 | 27.0 | 23.8 | 28.6 | 25.9 |
| 5 | 6.3  | 27.0 | 7.1  | 3.7  |

**Q7 授業をまじめに受けていますか**

1: まじめ 2: どちらといえばまじめ 3: 普通 4: どちらといえばふまじめ  
5: ふまじめ

|   | A科目   | B科目  | C科目   | D科目   |
|---|-------|------|-------|-------|
| 1 | 34.9% | 9.8% | 42.9% | 38.5% |
| 2 | 28.6  | 13.1 | 21.4  | 30.8  |
| 3 | 27.0  | 24.6 | 25.0  | 19.2  |
| 4 | 4.8   | 26.2 | 3.6   | 7.7   |
| 5 | 4.8   | 26.2 | 7.1   | 3.8   |

**Q8 授業に何回くらい欠席しましたか**

1: 0回 2: 1回 3: 2~3回 4: 4~5回 5: それ以上

|   | A科目   | B科目   | C科目   | D科目   |
|---|-------|-------|-------|-------|
| 1 | 62.9% | 24.2% | 57.7% | 40.7% |
| 2 | 14.5  | 9.7   | 23.1  | 18.5  |
| 3 | 12.9  | 33.8  | 11.5  | 18.5  |
| 4 | 4.8   | 21.0  | 3.8   | 3.7   |
| 5 | 4.8   | 11.3  | 3.8   | 18.5  |

## 昨年度(1991年度)地理学教室予算

|       | 予算          | 支出          | 消化率     |
|-------|-------------|-------------|---------|
| 特別実習費 | 3,398,000   | 3,397,194   | 99.98 % |
| 校費    | 748,000     | 747,928     | 99.99 % |
| 研究費   | 2,079,000   | 2,070,156   | 99.58 % |
| 測量予算  | 210,000     | 209,960     | 99.98 % |
|       | ¥ 6,435,000 | ¥ 6,425,238 | 99.84 % |

(残余金¥ 9,762 は、流用不可能な科目の残余である)

## 研究室購入主要備品リスト(1991年度)

- ・別製掲示板(鶴川用 3000\*1200 Cm)
- ・テレビモニター一式(テレビ、台、室内アンテナ)
- ・VHSビデオ一式(HIFIVTR、AVレコーダ、ノート)
- ・アスマン通風乾湿計 3台
- ・デジタル温度計 安立計器 HL-260(1mV)
- ・生物顕微鏡 オリンパス HS-21型
- ・LFD-581F 5インチFDユニット(鶴川)
- ・EMJ-4000R RAMボード(学生用)
- ・フォトビデオ一式(SONY RHV-A7など)
- ・ビデオ編集機器一式(エディタ・コンローラ+VTRデッキ)
- ・水中カメラ一式
- ・8mmビデオ録画装置一式
- ・OM-SAT ユニットボード (学生用)
- ・100M HD
- ・自動レベル+脚 (測機舎)

## 1991年度地理学教室購入主要図書

- B: 培風館**  
初等統計学(ホ-ル)

**H: ひるぎ社**  
沖縄の自然: 地形と地質(氏家他)

**H: 平凡社**  
ロシア・ソ連を知る事典

**H: 保育社**  
原色岩石図鑑(益富)

**H: 北隆館**  
淡水指標生物図鑑(鈴木訳)

**I: 岩波書店**  
変動する地球: 現在および第四紀(笠原他)

**K: 紀伊国屋書店**  
国立国会図書館所蔵和文雑誌目録  
国立国会図書館所蔵欧文雑誌目録

**K: 講談社**  
都市環境と人間(斉藤他)

**K: 古今書院**  
文化地理学(大島他)  
地名の世界  
不平等の地理学(スミ)  
フィールドワーク入門(市川)  
暮しの地理学(山崎)  
計量地理学概説(石水)  
自然災害を知る・防ぐ(大矢他)  
防災地形(水谷)  
二万五千分の一地図(大竹)  
地域統計概論(地理学基礎講座4)(河辺)

**K: 国勢社**  
データでみる県勢

**K: 国土地理協会**  
東京百科事典(普及版)1986

**S: サイエンスハウス**  
Fortran77(木下)

**S: 山海堂**  
改訂新版地図編集および製図(小川)

**S: 信濃毎日新聞社**  
フォッサマグナ(平林)

**T: 大明堂**  
植生地理学(林)  
都市化と都市システム(森川)  
斜面災害(中村他)

**T: 東京書籍**  
地球環境用語辞典(ラブロック)

**T: 東京大学出版会**  
大気環境の変化と植物(大気環境の科学5)(門司)  
海と地球環境(日本海洋学会)  
サンゴの生物学(山里)

**Y: 養賢堂**  
気象と農業生産(坪井)  
農業気象学(坪井編)